

令和2年度学校評価実施状況報告書

1 学校評価の流れ

年度当初に「教育方針」の理念、教育目標、重点項目を踏まえて、それらの実現に向けて各校務分掌・学年団・教科・学科がそれぞれ重点目標と具体的方策を設定した。評価にあたっては、自己評価としてそれぞれの重点目標がどの程度達成できているかを問う形で、2回の評価を行った。10月に上半期における取組に対する中間評価を行い、2月下旬には下半期を加えた年間評価を実施した。保護者からの評価や教員間での相互評価を得るために、12月に保護者および教職員を対象にそれぞれアンケートを実施した。

それらの集計結果等を参考に、2月下旬には各校務分掌・学年団・教科・学科が今年度の成果と課題を総括し、来年度に向けての改善策をまとめた。また、2月下旬の学校評議員会（学校関係者評価）で、学校の取組に対する意見・感想をいただき、今年度の学校評価を終えた。

《学校評価年間計画》

	生徒	保護者	職員	学校評議員
4月				・委嘱
5月	・授業評価の項目検討	・PTA総会（中止） （前年度評価結果）	・学校評価 年間計画策定 ・学校自己評価 重点目標等策定	
6月				
7月	・学校生活に関する 調査（第1回）	・学級懇談会 ・教科書選定 （PTA役員代表）	・授業評価分析	・第1回学校評議員会 （学校評価年間計画） ・教科書選定 （学校評議員代表）
8月				
9月	・授業評価	・総合祭（中止）		・総合祭（中止）
10月	・授業評価報告	・学校教育評価 項目検討	・学校自己評価 （上半期）	
11月		・公開授業アンケート		・公開授業アンケート
12月	・学校生活に関する 調査（第2回）	・学級懇談会 ・学校教育評価実施	・学校教育評価実施	・学校関係者評価 項目検討
1月	・インターンシップ アンケート（中止） （総合学科1年）			
2月	・インターンシップ アンケート（中止） （工業科2年）	・学校教育評価 結果報告 （PTA理事会）（中止）	・学校自己評価（年間） ・成果と課題、改善策 の取りまとめ	・第2回学校評議員会 （学校関係者評価）
3月				

2 評価結果のまとめ

(1) 学校自己評価結果

各校務分掌・学年団・教科の今年度の取組に対する自己評価結果は、4段階評価のうち3＝「だいたいできている」がほとんどである。総務部と保健環境部が、中間評価で2＝「少しできている」であった。これは年度当初は約2か月休業となり、PTA活動や健康診断が予定どおりにできなかったためである。PTA活動は年間を通じても思うような活動ができなかったため、総務部は年間でも「2」の評価となった。一方、家庭科、電気科、電子科が年間で4＝「よくできている」となったのは、資格試験の合格状況が良好であったためである。全体を通してみると、控えめに「3」としているのではという項目もあるが、これは、結果が明確である場合や、数値で良い結果が出ないと最上位の評価とはしづらいのではないかとと思われる。

本年度は、行事など多くの活動が中止となったり、実施方法の変更が余儀なくされたが、年間では「2」の評価が1項目のみであったことから、概ね当初の目標を達成したと言える。

(2) 学校教育評価（保護者アンケート）の分析と考察

昨年度と同様に、校務分掌、学年団の取組について、すべての質問項目に対して、A＝「そう思う」、B＝「だいたいそう思う」の肯定的な回答がほぼ8～9割であるが、「A」評価は少なくなった。E＝「判断ができない（わからない）」の回答が昨年度と比べるとほぼすべての項目で増えているが、コロナ禍の中でやむを得ないと思われる。「E」評価が特に多い項目は、具体的な取組の内容が保護者に伝わっていないと考えられる。今年度からメール配信システムを導入して、ほとんどの保護者に利用していただき、以前と比較すると学校から保護者への連絡は円滑にできるようになったが、これからも学校の様々な取組の内容が保護者に伝わるようさらに努めたい。

今年度は省力化、省資源化のためにアンケートを紙媒体からWeb入力に変更した。教員の集計業務はかなり省力化できたが、回収率は昨年度までの紙媒体の場合の90％程度から70％弱となった。

(3) 学校教育評価（教職員アンケート）の分析と考察

昨年度までマイナス評価が多かった業務の効率化、簡素化については、多くの行事が中止や縮小となったことや、ICTによる効率化が進んだことなどから、マイナス評価は減少し、ほとんどの項目で評価は向上した。しかし、校内人事や校務分掌については昨年度と同様に他の項目と比べるとマイナス評価が多い。まだまだ業務量が多いことや負担に偏りがあることが推察できる。

教職員からの意見では、行事の少なかった今年度の状況を参考にした今後の行事を見直しや急速に進んでいるICT活用についての戸惑いや不安の声が聴かれた。

(4) 学校関係者評価

- ① 教職員アンケートの分析にもあるように、職員の仕事量の差についての指摘があった。
- ② 「コロナ禍で実施が難しいが、インターンシップ等のキャリア教育を強化していただきたい。たくさん卒業生が地域で会社経営をして活躍されており、うまく利用して生徒に刺激を与えて欲しい。」という意見をいただいた。
- ③ 「生徒が校内、校外で気持ちのよい挨拶を返してくれる。」「通学の様子を見る限りは、生徒が落ち着いており、基本的な生活習慣が身につけているように感じる。」というお褒めの言葉や「子どもたちが自信と誇りを持って学校生活を送り、母校を誇りに思い、パワーを充電しに立ち寄れるような暖かい学校運営をお願いします。」という激励の言葉をいただいた。
- ④ 福祉出前教室に参加されている方から、車いすなど障がい者の立場になる体験への参加についての案内をいただいた。

3 次年度の課題

- ① 今年度は保護者向けメール配信システムを導入したが、学校からの情報をより確実に、分かりやすく保護者や地域の方に伝えるためにさらに工夫が必要である。
- ② 保護者アンケートはWeb入力を継続したいが、回収率の向上を図る必要がある。
- ③ 1年生の入部率が低くなっていることなどから部活動の活性化が課題である。
- ④ 教職員の業務量はまだまだ多く、特に一部の教職員の負担が過多であると思われる。さらに、業務の効率化や、簡素化等を進めなくてはならない。